

平成31年4月8日(月)

平成31年度が始まります。始業式と入学式です。

### 式辞

いわき高月台は、桜の花が入学式とともに一気に花を咲かせ、今は盛りと咲き競い、見る間に雲のごとく花びらをなびかせました。本日は風の中に祝いの花吹雪となっております。

本日ここに、青木県会議員を始め、数多くの方々を来賓としてお迎えしつつ、本校平成31年度の入学式を挙げていくことは、誠にうれしい限りであります。

ただいま入学を許可した入学生の皆さん、入学おめでとうございます。本校の入学生は、かつて、五百名を超える時代もありましたが、昨年度から二百八十名の募集定員となり、本年もまた、二百八十名の新進気鋭の若者がその志を胸に校門をくぐってまいりました。

かつて、本校野球部が、夏の甲子園準優勝の栄誉を勝ち取った時に、本校出身であります文化勲章を授与されました詩人の草野心平氏は、決戦を前に次の詩をそのメンバーに送りました。

紹介します。

#### 磐高野球チームにおくる

五十四五年前に自分も歌った永い伝統の校歌は古い明治調

進学率は高いけれど背丈はおそらく一番低い

そんな小さな君たちがしかし豪胆でち密で冷静で果敢で驕らず悪びれず周章  
てず臆せず

その精神のバネは強くはげしい

類のない不思議なチームよ

さらば行けそして勝てよ

磐城高校野球部は、まさにそれから戦いに臨んでそして勝ち続けたのであります。小学六年生の夏の暑い日に、親戚一同が集まってその戦いに一喜一憂し、試合終了とともに流れる校歌を何度も口ずさんで、いつの間にか覚えてしまい子供ながらも不思議な気持ちになったのを覚えています。

この詩の中にある「豪胆で、ち密で、冷静で、果敢で、驕らず、悪びれず、周章せず、臆せず、その精神のバネは強くはげしい」という部分に注目ください。この言葉からわき出るイメージこそが、磐城高校そのものであるといつて過言ではありません。その言葉のひとつひとつが、いままさにここにいる新入生の心を揺り起こすことでしょう。

その戦いから、48年がたった今、目の前の一人一人の新入生にも、磐城高校の魂が次第に宿るものであると考えます。

その根柢は、どんなに混迷と混乱と絶望と諦念の日々を迎えようとも、妥協することなく他人をリスペクトしながら、決して焦らず慌てずあきらめず、明日を信じて進んで行く日々がこの磐城高校にあるからです。やがてやってくるだろう新しき正しい時代をつくるために、前を向いて進む日々を私たちとともに君たちが持つからであります。

8年前に、全世界の人々が経験しなかったことを私たちは経験し、私たちは学んできました。

人間は完全なものではなく、必ず間違ふことがあり、その間違いに気づき悩み、苦しみに傷つくこともあるということ。そして、その誤りを正すためには、百年の月日が必要であるだろうということ。

しかし、誤りを正し、間違いを認め、新しい希望の種をまき、そのことから決して逃げることなく、前を向いて、苦しみや悲しみの中から本当の希望や喜びを見いだすこともできるのではないかということ。

私たちは、自分で自分を決定し、時に間違ふことがあるが、自分で自分を決定する力を持つからこそ、そこから再び立ち直る力を持つことができると思います。

新入生の皆さん。この学び舎の三年間を、日々、新たな問いを見いだす三年間にしてください。いつもわからないことをわかろうとしつつ、自分から積極的に学ぶことは、アクティブラーナーとして、地域の課題、世代の課題、世界の課題を我が物とすることです。そして、解決策が簡単には見いだせない問いを自分に引き寄せながら、共に学ぶ人たちといかにつながることができるかを考え、様々な人々の随伴者として進みつつも、想像力を駆使しながら、新たな正しい時代の先導者となっていただきたい。そのことが、まさしく進路を開拓する力ともなり、未来を開拓する力となるはずです。

新入生の皆さん。これから三拍子の校歌が披露されます。その二番の後半にある歌詞を見てください。「努め励みて我等弛まじ。」とあります。私たちは努力を怠らず学問に励み、決して緩んだり油断したり勢いを弱まらせることはしないのだ。という強い意志があります。そこには、高い志を持って事に当たる磐城高校の心が、存在します。この心こそ、我等のものであります。なぜなら、校歌のこの一節により、私たちは、決して一人ではなく、三万六千を超える同窓生と見事につながるのであります。新入生の皆さん、君たちは、この学び舎で学ぶことから、永遠に磐城高校集団の一員になるのです。

本日のこの感激を胸に秘め、雲のようにわき上がる桜の姿を目に焼き付けつつ、一人一人が、一日一日を大切に、今年の桜のように、咲くときには、一気に咲き誇る本物の磐城高校生になってほしいと考えます。

保護者の皆さん。本日は誠にありがとうございます。這えば立て、立てば歩めの親心と言われますが、本日まで様々な事柄を乗り越えて、お子様の高等学校入学式を迎えられる喜びは、ひとしおのもののご推察いたします。

一方、子どもたちが多感な時期を迎え、高校生活の3年間は、新たな悩みや苦労が生まれる時期であるとも想像できます。私たち教職員は、子どもたちが自己実現できるよう、全力を尽くして参りますが、子どもたちの健全な成長と豊かな人格の育成には、学校と家庭の連携が不可欠であります。どうか学校の指導方針をご理解いただき、ご支援とご協力を賜りたくお願いいたします。

結びに、新入生の皆さんが明るく充実した学校生活を送り、やがては地域、時代、世界を支える人材として大きく成長するよう心から祈念しまして、式辞といたします。

平成31年4月8日

福島県立磐城高等学校長 阿部武彦